

慶応元年九月八日より慶応元年九月十日まで

P8311314 right

月色紛々照旅愁 離国以来無一字 枯腸断了嬾登樓、思家、南船北馬半年  
強 幾度思家幾斷腸 天外浮雲散還合 客身何日得帰郷  
九日未 晴雨数変

橋本(釜)義、濱方へ御用有し趣来る、為めに午餐を設く、達作三遊歩旁へラルト方へ行く  
(敬僕碑、碣の義也)

重陽節物復何求 黄菊摧殘庭院幽 鎮日呼杯須醉倒 登高恐引望郷愁  
望郷楼上獨思家 背手任他風帽斜 記得故園兒女輩 茱萸(\*)黄菊語阿爺

閒適、

僑居客来少幽閒 物外情雲晴層塔 秀木落遠山明簾 浪無風静香烟燒

夢清紅塵□不到脱却利魚名、憶家書、家書不斎

半年強団坐燈前 謾語郷剥喙欣聞 有消息開簾窗外、唯風篁

P8311314 left

十日申 晴、乍陰、雨数次

シーボルト来り強て面し、崎陽へ産物、並商法伝替の学校を建造し意工有し、右は

御国のため可然と思ひし其段書翰申受度旨申聞に付、事理情実を以、断然□処

右免状と申には無し、其身の信を取る迄の證にいたし後日□労決て無し故、是非落手いたし度

兎に角明日案分持参の趣也、是また拒絶は不伝言ども先づ其まにいたし歟、一昨伝信

此事着の蘭人方(インゼニール)へ器械の義、問合として濱出向き帰舎の上糾問せしに徹底

詳悉なす、猶

明日再応出向き問合の趣也、(尤本日日曜日付、蘭人引合無し由)委曲申談□き、且ロットルダ

ムより差越器械見改を

(建白條)受段云々の蘭文書面は受取源一より、澤を命じ歟、橋本(釜)、濱の帰りと共に同行し来る夕飯

を設く、本夕蘭より大砲方橋本太郎左衛門合□製器械御買上の義に付、着に付、本八時より右

\*1:茱萸(しゅゆ) ぐみ、灌木の一種

( )内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れあり、虫食いにより文字が無い等です。